

■ 発行人 飯山市農業委員会 松永晋一
 ■ 編集 飯山市農業委員会 情報委員会

飯山市農業委員会事務局
 飯山市役所農林課内
 電話：0269-62-3111 (内線261)
 FAX：0269-62-6221

16.9

No.220

がんばっています！

- No.36 -



木原翼さん(太田地区)

地域活性化・観光振興に取り組みたいの思いから 飯山市ワインぶどう研究会設立

平成27年4月13日、「飯山市ワインぶどう研究会」が飯山太田地区で設立されました。当会は飯山市の新たな特産物としてワインぶどう栽培を広めていくとともに、新たな観光商品を創設することで飯山の魅力を高めていく目的で創られました。

会長の木原(24歳)です。私は旧飯山高校を卒業後、駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ(GMS)学部に進学。昨年、卒業・帰郷し当会を立ち上げました。大学ではマネジメント論、情報通信論、グローバルメディア論等を学び、共に苦楽を過ごした学友たちは就職よりも起業を志す者が多く、そうした

環境のなかで強いハングリー精神を得た4年間で、ワインぶどう栽培を始めようと思ったのは大学4年の秋。きっかけは私の父からの提案でした。大学在学中も度々帰省していた時に感じていた地域経済の現状と、幼少期の賑やかだった地域の記憶が重なり、地域活性化・観光振興に取り組みたいと思ったのは自然な流れでした。現在では飯山でもワイン造りを始めるとの声を聞き、興味を持っていただく方がおかげさまで増えております。

現在、会員数は80名。当会は3部会(栽培部会・醸造部会・振興部会)で構成されます。栽培面積は3畝(予定

ぶどう畑をどんどん広げ、いずれワイナリーを設立し飯山産のワインを造りたいと、話をする木原さんの姿は、とても頼もしく見えました。ぶどう栽培からワイン造り、そしてワインの販売をするこにより、得られるお客様の笑顔があれば、楽しく農業ができると話してくださいました。木原さんは、とてもカッコイイです。楽しくカッコイイ農業をしたいという方はお問い合わせしてみてください。遊休農地解消や地域活性化につながることを期待しています。

情報委員 酒井智恵子

地含む)。品種につきまして、栽培面積が多い順にシャルドネ/メルロー/シラー/カベルネ・ソーヴィニヨン/ソーヴィニヨン・ブラン/カベルネ・フラン/ヴィオニエ/山系赤品種(品種未登録)です。また、栽培部会・醸造部会につきましては、現段階において活動事項は未定でございます。私自身も初めてのワインぶどう栽培ということもあり、経験を通し様々な資料を集めております。長期計画の中で、将来的にワインぶどう



「平成28年度北信州農村女性のつどい」に参加して

平成13年より今回で16回目となる女性のつどいの目的は「伝えよう 育てよう 地域の魅力」をテーマに女性農業従事者の能力の向上を図り、農業に誇りと自信をもって取り組めるよう北信州6市町村の農業関係者が8月25日木島平村若者センターに一堂に会し、先進事例や活動を共に学び今後の方向性を考える場となりました。

冒頭の基調講演では「伝えよう 育てよう 日本・信州の食」と題し、長野県短期大学の中澤弥子教授より、2013年ユネスコ無形世界遺産に登録された「和食」の素晴らしさと長寿国日本の中にあつて長野県、長野県飯山市「無形民俗文化財」に選りあげられた4品目として富倉そば・笹ずし・えご・いもなますの発表があり改めて健康食として再認識しました。



続いて事例発表では3つの

取り組みが発表されました。
 ①加工組合さくら 斉藤利恵組合長より地産地消をモットーに主に米粉パンの販路拡大を図る目的で松本市梓川での活動を紹介され、設立期の苦労談を経て平成18年の発芽米入りみそパンで県知事賞を受賞し、広告宣伝費の伴わないパブリシティ効果を身をもって体験されたとの事です。現在はパティシエの鑑塚俊彦氏とのコラボレーションで渋谷ヒカリエにも進出しています。
 ②木島平村糠千地区 木島平村地域おこし協力隊の馬場千遥さんは奈良県出身で金沢大学卒業後より木島平村を第二の故郷として単身村に移住し、人口100人、34世帯、高齢化率40%超の過疎地域に大学コンソーシアム木島平校を設立し、地域住民と一体となって延べ350人を超す学生と地域との交流を通じ、活性化を図っている現状に感銘を受けました。
 ③Nj☆北信 木内マミ代表(常盤地区)とNjの仲間たち。Nは農業、jは女子で20代から40代の脱サラ女性含む農業に携わっている女性のネットワークであり、LINE フェイスブック等

あしあと 7・8月の活動記録

- 7月8日 農業委員会役員会
- 21日 県女性農業委員の会総会・研修会(岡谷市)
- 29日 7月農業委員会総会・各専門委員会
- 8月9日 農業委員会役員会
- 24日 北信五市農業委員研修会(千曲市)
- 25日 北信州農村女性のつどい(木島平村)
- 31日 8月農業委員会総会・新体制検討委員会

北信五市農業委員研修会報告

去る8月24日(水)に北信五市の農業委員130人余りが、千曲市上山田温泉にあるホテル圓山荘において研修会を実施しました。初めに講演として「改正農業委員会法に基づく農業委員会活動について」と題して、長野県農業委員会協議農政・農地部長 佐藤源彦氏からお話がありました。

改正農業委員会法は平成28年4月1日に施行されており、北信五市の中ではすでに2市が新制度に移行しており、飯山市は平成30年度に移行となります。すでに新制度に移行した市では課題等が上がつてきており、現在飯山市においても委員会内に新農業委員会体制検討委員会を設けて定数などについて検討しております。

次に事例発表として、長野市農業委員の久保田冷子氏から「鬼無里地区の活性化策『合同会社 裾花ていばん家』の設立と運営」について発表がありました。管内の野菜を使った「味噌漬け」を作っているが、かつては各家庭で作られていた「味噌漬け」を作る人が減ってしまいい、このままでは味を継承



することができなくなってしまうと会社を設立することになりました。鬼無里で作っている添加物を混ぜない味噌に漬込んだ安心で「しょっぱい」味噌漬けを製造販売することにより地域の活性化に貢献し、将来的には味噌漬け以外の漬物を作り、地域に根付く会社にしたと思っていますとの事です。

私が子供の頃、ご飯のおかずと言えは必ず漬物が出され、特に味噌漬けはその中心だった様に記憶しています。現在の食卓は経済の発展とともに多種多様なおかずが並び、欧米化した内容になっていきますが、それぞれの地域にある特産物を後世に伝えて行くのも現在の我々に課せられた事の様に思っています。

情報委員長 渡邊敬一